

第2学年 生活科 学習指導案

八王子市立由木西小学校

平成24年10月26日（金）5校時

2年1組 男子8名 女子6名

1 単元名「サツマイモを使って楽しもう」

2 単元のねらい

- (1) 自然に興味をもち、自分たちの作った作物に愛着や喜びを感じることができる。
- (2) 昨年度の活動を想起しながら、さらに工夫して体験活動をしたり、積極的に人とかかわろうとしたりする。
- (3) 友達と協力して活動し、自分や友達のよさに気付く。

3 評価規準

生活科への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
・育てている植物の成長を楽しみにしながら世話を続けようとしている。 ・収穫を通して、味わうための活動に意欲的にかかわろうとしている。	・世話をする中で感じたことや気付いたことなどを自分なりに表現することができる。 ・収穫をみんなで楽しむためにどんなことをしたらよいか考えることができる。	・育てている植物の変化や成長の様子に気付くことができる。 ・収穫を通して、成長を喜ぶとともに世話を続けた自分や友だちのがんばりに気付く。

4 研究主題とのかかわり

(1) 食の視点

- ・ 地域の産物、食文化や食にかかわる歴史などを理解し、尊重する心をもつ。

(2) 単元について

生活科単元「おひさまもりもりまるかじり」では野菜づくりを計画的に行うことで、野菜の育て方や育てるための様々な工夫に気付くとともに、友だちと協力して取り組むことの喜びを味わうことができるようにしている。本校では豊かな自然を生かし、土作りから始め、栽培、収穫と多くの野菜作りを体験することができる。

本単元で扱うサツマイモは苗から植え、定期的に観察や世話を行ってきた。日常生活の中でも食する機会が多く、身近な素材であり、児童も親しみをもっている。サツマイモは地中で育つために、成長の様子が分からない分、収穫を楽しみにできる野菜である。収穫した時の喜びや感動を基に体験活動を展開していきたい。昨年度の焼きイモ、サツマイモ料理に加え、今年度は処分していた“つる”に注目し活動していく。自分たちで育てた実を食べるだけでなく、つるを食べてみたり、リースを作ったりすることで、サツマイモに対して愛着が沸き、意欲的に活動できると考える。

5 児童の実態

2年生にとって、体験活動を通して学ぶ生活科は大好きな教科である。年度当初から様々な野菜の栽培、観察を意欲的に取り組み、収穫する喜びを感じている。そして、よもぎを扱った単元では見る・触る・味わうなどの感性を使った体験活動（叩き染め、よもぎ団子作り）を行った。自然の素材の生かし方が分かり、新たな発見や気づきが得られたことは、違う素材でも体験したいという広がりにつながっている。

1年生の時に、児童はサツマイモをつかって絵を描いたり、焼き芋にしたり、蒸しパンを作ったりする活動に取り組んできた。「収穫が楽しみ」、「美味しいサツマイモを配りたい」、「つるは本当に食べられるの」「リース作りが楽しみ」と、これらの活動に興味・関心をもっている。

6 指導の具体的な手立て

(1) 教材の工夫

年間を通して、自分たちで育て収穫した食物を教材として、調理したり生活科の素材として使ったりすることで、食物に親しむとともにかわりも深まると考える。

(2) 学習過程の工夫

2学年合同の単元を設定することにより、異学年交流、児童相互の関係において多様な内容が期待できることから、活動が幅広いものになっていく。また、2年間、栽培活動を繰り返して学習することで、自然とのかかわり、人とかかわりを深めていくことができる。

(3) TTの活用

図工専科とのTTを活用することで、より細かい、具体的な指導が可能である。特に技術面での指導、声掛けは個に応じた指導ができるので、内容が深められる。

(4) 見通しをもった指導計画の提示

意欲的に活動するために、次に何をするか、何を準備するかが一目でわかる指導計画の提示を工夫していく。

7 指導計画

- | | |
|--------------------|--------------|
| ・ サツマイモを育て、観察しよう | 4時間 |
| ・ 計画を立てよう | 2時間 |
| ・ 収穫しよう・つるを選定しよう | 2時間 |
| ・ 焼き芋大会をしよう | 2時間 |
| ・ サツマイモ料理（つるを食べよう） | 2時間 |
| ・ リース作り | 2時間（本時1/2時間） |
| ・ 1年生にリース作りを教えよう | 1時間 |
| ・ サツマイモ料理（実を食べよう） | 2時間 |
| ・ 絵や文でまとめよう | 2時間 |

8 本時について

(1) ねらい

- ・ リース作りを通して、身近な食物に関心をもつ。
- ・ 収穫をみんなで楽しむとともに、サツマイモのつるの活用の仕方考えることができる。

(2) 展開

児童の主な活動	○指導上の留意点 ☆評価
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center; margin: 10px auto; width: 80%;"> <h2 style="margin: 0;">つるでリースを作ろう！</h2> </div>	
<p>1 これまでの活動を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ サツマイモでの体験活動（栽培、観察、焼き芋、つるを食べる） <p>2 つるを使ったリースの作り方を知る。</p> <p>【作り方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ つるを用意する。 ・ 直径50cmを基にだいたい大きさを決める。 ・ つるを絡ませ、一つの輪にしていく。 ・ 数箇所針金で留める。 ・ 葉などの飾りをつけていく。 <p>3 つるを選び、重ね合わせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Aグループ：教室用 ・ Bグループ：昇降口用 ・ Cグループ：お世話になった吉田さんにプレゼントする <p>4 飾りを見つける。</p> <p>5 後片付けをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 様々な体験活動をしてきたことを想起させる。 ○ サツマイモの実やつるを食べたことに触れ、余ったつるでリースを作ることを伝える。 ○ クラスで三つ大きなリースを作ることを伝える。 ○ 昨年は一人一人クズでリースを作ったが、今年はサツマイモのつるでリースを3つ作る意味を考えさせる。 ○ 図工専科が安全な道具・用具の使い方を説明する。 ○ 図工専科と協力しながら活動の補助をする。 ○ 始めの重ね合わせが上手くいかないグループは、事前に用意したつるの骨組みを使う。 ☆ 収穫をみんなで楽しむとともに、サツマイモのつるの活用の仕方考えることができたか。 ☆ リースを作ることで、身近な食物に関心をもつことができたか。 <食育> ○次時に飾りを付けることを伝える。 ○落ちている葉や木の実などを探し、時間がある場合は飾りをつける。 ○使った道具や材料を元の位置に戻す。 ○協力して後片付けをするように促す。

